

発掘新聞

11月27日号

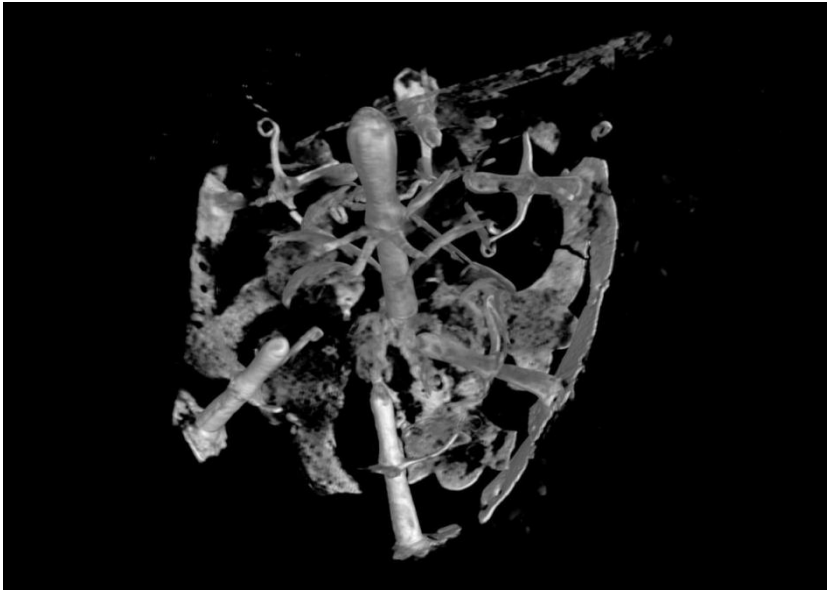
平成25年度第7号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

ふなばるこふんいぶつまいのうこう 古賀市船原古墳遺物埋納坑、続報！



古賀市の船原古墳遺物埋納坑で見つかった金銅製歩揺付飾金具のX線CT画像

国内随一の優品！ 金銅製歩揺付飾金具

こんどうせいほうつきかさざりかなぐ



今月初め
にもお伝え
した古賀市
の「船山古墳

遺物埋納坑」で新たに「金銅製歩揺付飾金具」が発見されたことが、十一月二四日西南学院大学で行われた「九州考古学会」で発表された。

本館のX線CTスキャナによる分析と九州国立博物館のコンピュータによる復元作業で明らかになったものである。

「金銅製歩揺付飾金具」は、雲珠（うず）と呼ばれる馬具の一種で、馬の下半身に付けられた装飾品である。金具は対角線の長

コンピューターによる原形復元
（九州国立博物館製作）



さ一 cm 前後の六角形の金属板の中央および各角の合計七ヶ所に「歩揺付飾金具」といわれる8ないしは4つの飾りが付いた突起が施されたものである。馬が歩いたたびに花びら形の飾りが揺れるつくりになっていたようだ。

「金銅製歩揺付飾金具」自体は奈良県藤ノ木古墳や福岡県の沖ノ島でも見つかっている。しかし、本遺跡の出土品はきわめて華麗なデザイン（デザイン）の優品であり、この資料のように一枚の板に複数の歩揺付金具が施されたものは国内では出土例がない。朝鮮半島の新羅では似た構造の例が見つかっており、関連性があるかという。

現在は右下写真のように土に覆われており、今後CTでの成果を元に復元作業を進めていく。

（城門記者）

【保存科学の成果を展示予定！】

平成二六年三月四日（火）

本館第4展示室にて開催！

船原古墳CT画像や「金銅製歩揺付飾金具」3D模型などを展示予定。今話題の「遺跡」・「科学」を見逃すな！



出土したままの金銅製歩揺付飾金具（本館撮影）

【新しい発掘方法？室内で発掘！】

船原古墳群では、多くの遺物を医療用ギブスで固定し、周囲の土ごと取り上げている。そのまま本館に運んだ後、CTで調査を行い、遺物の状態や形を確認して土を除去する予定であり、さながら室内での発掘作業である。

今回のような複雑な遺物もろいため、現場で土を除去していくだけでは形がわからなかった可能性が高く、「室内発掘」が功を奏した形となった。ただ、CTで調査するために期間は長くかかり、どのような場合に「室内発掘」が有効か判断するためのモデルケースとなることが期待されている。